

アメリカ西部、ロスアンゼルスの旅 1997.8.24 - 31

一日目

8時間余りも飛行機に乗っていたのに、ポートランドに着いたのは、まだ25日の昼前。16時間の時差のなせる業。ロスへの乗り継ぎの為に、次のフライトまで2時間余りの待ち時間の時、ドルの持ち合わせがまったくないのに気が付いて、両替所で小銭を両替していたら後ろから、「中島サンですか？」の声。思わず英語でなく日本語で「ハイ！」と返事して振り返ると、何と我が輩の実家の隣の娘さん「まみちゃん」が立っているではないか。遙か遠いアメリカの地で、知り合いに出会うなんて何と奇遇。宝くじも当たるかな。今度買ってみよう。

「まみちゃん」達も家族旅行なので、ポートランドで乗り継ぎ、フロリダのオーランドのディズニーワールドへ向かうらしい。お互い出発までの暇つぶしに旅行談義に花を咲かせて再会を約して、それぞれのターミナルへ向かう。俺たちは、1時間と少々でロスアンゼルス空港に到着。ツアー客は俺たちファミリー一組だけなので、気楽にガイドさんと市内観光に出かける。

まず最初に行ったのは、空港からすぐ近くのマリナ・デル・レイというヨットハーバーがあるところ。大きな停泊港には、豪華なヨットやクルーザーがわんさかと停泊している。TVドラマの「マイアミバイス」でドン・ジョンソンとワニが住んでいる、豪華クルーザークラスも数えきれない程ある。正にアメリカの豊かさの一部分を垣間見た気分。すごい！

次はロングビーチ。ここは大きな港で、かの有名なクイーン・メリー号も係留されていた。(クイーン・メリー号1934年に建造された世界最大の豪華客船全長308m、8万トン速さ時速53Km、1957人の乗客1174人の乗組員を乗せ大西洋を1200回も航海して1964年に引退、1967年12月からここロングビーチの「」桟橋に係留されている。)

この船の入り口のクイーンズ・マーケットプレイスによって、アイスクリームを食べる。アイスクリームの美味しさに三人で感動！

お次はハリウッドへ。一度来て見たかった「チャイニーズ・シアター」前庭のあの有名な敷石やハリウッドの大スター達の手形、足形がはめ込まれている。お気に入りのスター達の手形、足形をパチパチと記念撮影。俺にとってはトても感動物なのだが、子供はつまらなさそう。アーノルド・シュワルツェネッガーぐらい知っているだろう、と言ってもフンの一言。こりゃだめだ。5年ほど連れて来るのが早すぎた(良平小学校六年の夏)。

今回のアメリカへの旅は、俺にとって今までの旅と違って、もう一つ感慨深いものがある。それはアメリカが、俺にとって特別な国だけに、何かに淡い期待のような物を抱いているのかもしれない。センチメンタルは心の中にしまって置いて、さあ！思いっきりアメリカをエンジョイするぞ。

午後3時頃になったので、メイフェア・ホテルにチェックイン。このホテルは市の中心地から1 kmくらい、西のはずれに位置している。外見は古そうだが、中は改装したばかりでかなりきれいだ。ロスの東側は治安が悪いと聞いていたが、この辺りは大丈夫かな？

部屋に入って荷物を整理して、時差が16時間もあったので、本当なら今ごろ真夜中で眠っている頃。ここで眠ってしまえば時差ぼけになってしまう。まずは、ホテル近辺の状況を調べてみることにしましょう。

コンビニもどきのスーパーが3・4軒。ほか弁1軒にタイ飯レストラン1軒。ほとんど住宅街の辺りな所みたい。おまけに、どのスーパーも頑丈な鉄格子のシャッターを全部閉めていて、入り口の所だけ開けている。まるでお休みモード。中に入るとレジ1台あり、おじさんが1名と屈強な大男のガードマン1名が雑誌を見ている。治安が比較的良いと言うこの辺りでもこの調子。家族の安全の為に、夜暗くなってからの行動は慎重に！

スーパーの中をぐるりと見て回り、アメリカの食文化と物価をざっと調べてみた。食べ物に関しては、やはりカンズメ類、ドライ食品、冷凍食材、瓶詰め。コカコーラ3リットル瓶が99セント(約90円)安い！その他生鮮食品類は、フルーツが少々、野菜類なんて皆無。この近辺の住民は、こんな所で買い物しているんだろうか？それにしても、今5時頃だけど、スーパーの中にも周辺にも、買い物に歩いている女の人を見かけない。いったい、何時買い物に出るの？「多分週末にまとめ買いしているんだね。」ミネラルウォーター2本とお菓子を少々買って店を出る。

外に出ると、道路で映画の撮影をしている。さすが映画の街。だけど見物人は、俺達3人だけ。ホテルの方へ歩いていると、顔を真っ白にペインテングした異様な男がフラフラと歩いて来る。これはいけません。逃げるが勝ち。急いでホテルに戻る。

暗くなると外出は危険なので、まだ明るい7時頃に近くの「ホカ弁」でアジア風の料理を3人分テイクアウト(すごく安い5ドル約400円)。こんなに小額の店でも、ビジネスマン風の黒人の男性は、クレジットカードで払っていた。アメリカはもう、完全にキャッシュレス社会なのだと言えそう。メイフェアホテルには、俺たちファミリー以外には、日本人らしき宿泊者はいないようだ。フロントも英語オンリーだし、チョット不安だと思って

いたら、1階フロアの隅っこに小さなお店があり、そこのおじさんが日系二世で、日本語がかなり話せるみたい。頼りにしてますよ！ロスでの第一日も無事終了。

二日目

今日は、グランド・キャニオンへのオプション・ツアーを予約してあったので、朝8時30分にガイドのMIZUOKAさんが迎えに来てくれ、小さな空港へ行く。ここはセスナ機専用の空港で、俺たち3人と日本人のカップルの5人が相乗りでセスナに乗り込む。かなりの低空を2時間位飛んで行くうちに、気流の状態が悪くて上下にドンドンと振動して、気持ちが悪くなってしまった(俺だけ)。そうこうする内に着陸(やれやれ。ゲボせずに良かった)。

トウシャン空港からシャトルバスで、サウスリム(南壁)のビレッジまで30分。ここに着くまでに眼下にいくつもの谷が見えたが、そんなのは比喩にならないとてつもない巨大な谷が目の前にある。全長460km、深さ1kmの断崖が果てしなく続いている。コロラド川が、数十億年と言う途方もない時間をかけて大地を削り造り上げた大峡谷だ。いろんな本や写真で知ってはいたが、目の前に広がる圧倒的なスケールに驚くばかり。すごい、すごい、すごい、すごい。さあ！シャトルバスでポイント廻り。

ヤキ・ポイント 雄大な景色を見る。NO.1ビューポイント。断崖の下の方に、ハイカーやラバの姿が見られた。

グランド・ビュー・ポイント 景色が大きく目の前に広がって、コロラド川の流れが良く見えるポイント。

デザート・ビュー・ポイント コロラド川がカーブしている角にあるので、東と西の両方が見渡せて、支流のリトル・コロラド川が合流しているのも見られる。

大峡谷のほんの一部分を見て廻り、時間の都合で引き上げる。今度来る機会があれば、ぜひ2泊ぐらいして、峡谷に下りてキャニオンの深さを実感したいものだ。さらば、See You Again!!

帰りのセスナは飛行機酔いもなく、とても気持ちよく帰ることができた。ホテルに戻ったのは7時頃。まだ明るいので、昨日見つけて置いた「タイ飯屋」さん(タイ国料理レストラン)で夕食をとる事に決まり出かける。タイ国には、2回ほど行ったことがあるので、大まかな料理名は知っているので安心して入れた。中年の夫婦と息子夫婦の4人でやっている、こじんまりしたレストランで、とてもアットホームなお店だ。ホテルに近い事だし、チョット気をゆるめて、俺はメコンウイスキー。あけみさんはビール。良平はオレンジ

ユース。まずは「おつかれさん!」。さあ、飯飯。トート・マン(タイ風のコロッケ)、カオ
ツパ(焼き飯)、クィッティヤウ・ムー(豚肉入りのビーフン焼きそば)、トムヤムクン(お
なじみ海老と野菜の激辛スープ)、トート・ガイ(鶏肉のから揚げ)、ヤム・パク(生野菜の
レモン、唐辛子和え)。辛い、甘い、酸っぱいの、懐かしいタイの味がヨミガエッテ来た。
この味は、結構我が輩のファミリーには人気なのだ。

「うまい!うまい!」と全部たいらげる。おやじ!おあいそ!と行きたい所だが、「チェック
プリーズ!ベリィ デリシャス!」。おやじニッコリ、サンキュー。アジア人の顔したものの同
士が、英語で話し合ってるのもチョット変な感じ。明日は良平のお供で、「ユニバーサル
スタジオ」へ行く予定。ロスの街は暗くなってしまうと、ちょっと危険な感じなので、夜 8
時過ぎは、ほとんどホテルで過ごしている。このホテルの宿泊客に、日本人はほとんど泊
っていないくて、会話から想像すると中南米、中国本土又は台湾、アメリカ人が圧倒的に多
い。ホテルの売店は、日本人夫婦が経営していて、両替(少し高めだが)してもらったりして、
ロス情報をかなり仕入れた。 さあ今夜も早寝!健康、健康。

三日目

十分の睡眠をとって、朝 8 時から行動開始。「オムニホテル」(このホテルは、近ツリ専用
で日本人観光客ばかり)まで 20 分程歩いて、ホテルの前から無料バスで「ユニバーサル・ス
タジオ」へ。

大人 31 ドル、子供(12 歳以上)25 ドル也を払って入場。入ってすぐ吊り下げられた、巨大鯨
「ジョーズ」君の口の中へ頭をツッコんで「パッチリ」。急いで「スタジオ・トラムライド」(4
両編成のバスに乗って、映画のセットや映画のワンシーンを体験する約 1 時間のツアー)へ
向かう。このトラムライドは、「朝一番で、左側のシートを確保すると楽しさ倍増」とのガ
イド書のアドバイスにしたがってみたが、その通りだった。朝一番は、撮影使用によるコ
ース・カットもなく、左側では、パニック・アクション場面も多い。子供を楽しませるつも
りでやって来たけれど、ここは大人達も十二分に楽しめる。

ワンダーランド ET、バックドラフト、バック・トゥ・ザ・フューチャー、ジェラシック・
パーク、と映画でおなじみのライドを楽しみ、「ワイルド・ワイルド・ウエスタン・ショー」
で水上スクーターに水をたっぷりとぶっ掛けられて、観客みんなが大受けの大満足。子供
以上に、親の俺達が楽しかったかもしれない。大人も子供も一緒になって楽しめる遊園地
は、日本ではお目にかかった事がないけれど、これから出来てくるのかな?

夕方 5 時頃までたっぷりと遊んで、帰りはやっぱり「タイ飯レストラン」で食事して、ホ

テルに帰る。明日は、この旅行で一番の楽しみにしてる「メキシコ・テファナ」への小旅行で
~す。トイッ！

四日目

今日は、うれしいうれしい、「メキシコのテファナ」へ行く日です。朝 8 : 30 にガイドの「ミズオカ」さんが迎えに来て、バスデポまで案内してくれて、そこからグレイライン・ツアーの大型バスで出発。お客さんは 50 人位で、ほぼ満席。日本人は 12 名、残りは地元(アメリカ)の人。ガイドさんは英語と日本語の二本だて。「アリガタヤマ」。

フリーウェイ 5 号線を一路南へ。海岸線に沿ってロスからサンジェゴまで、地図の上に定規で線を引いたような真っ直ぐの道路。真にアメリカ的だな。坂道ひとつない大地を、120 km 位のスピードで 2 時間程走ってトイレ休憩。

パーキングエリアで、メキシコばいドリンク缶を買ったり、お菓子を食べて、パーキングに駐車してる巨大なコンボイと記念撮影。運ちゃんも窓から顔を出して、ピースサイン。しかし、でかいトラックだ。日本のトラックの 2・3 倍はあるネ。

休憩も終了して、一路サンジェゴへ。シーワールドを右手に見ながら市内へ。バルボア・パークの中にある「カフェ・デル・レイ・モロ」でランチタイム。このレストランは、1914 年の万博に使われた由緒ある建物。一時間のランチタイムなので、さっそく公園を散策。

キレイなおみやげ屋さんがいっぱいある。あけみさんは喜び勇んでおみやげ買い。出発時間だけ確認して、良平を連れてカメラをパチリパチリ。とてもキレイに手入れされた公園だ。だけれど、小鳥や小動物の姿を見かけない。何か無機物的な整頓された美しさかな。

さあ、休憩も終了！テファナに出発。フリーウェイ 5 号線を 20 キロメートルほど南下すれば、めざすメキシコ領「テファナ」。この辺りの道路には、「親子が手を引いて走る」絵柄の道路標識が目立つ。それは、「メキシコからの密入国者達が横断するのでの注意」の標識らしい。その数は膨大な人数だという。

そうこうするうちにメキシコ国境に到着。バスを降りて歩いて、大きな回転扉をぐるりと抜けたら、もうそこはメキシコ。入国手続きも何もなし。ここから中心地のセントロ(ダウンタウン)まで歩いて 15 分。余りあっけない国境越えに拍子抜け。それでもメキシコ、メキシコ。そうこうする内にレボルシオン大通りに到着。ここは、セントロのメイン・ストリートで、テファナ随一の繁華街。旅行社指定のおみやげ屋さんに案内されて、1 時間 30 分の自由時間。とりあえず、街へ出てタコス売りのスタンドで本場メキシコのタコスに挑戦。

かなり大きめで、生野菜(レタス、きゅうり、細いねぎ)もたっぷり、ひき肉の唐辛子炒めをくるりと包み、チリソースをかけて出来上がり。中々のお味。タコスを食べながらブラブラとショッピング。

銀製品が有名なので、指輪を見に店に入ったけれど、デザインが好みのものがなく、みんなまいち。あけみさんの大好きな雑貨屋さんを2・3軒覗いて廻るが、これまたまいち。靴屋さんでブーツを見せてもらったりしたが、結局何も買わずじまい。

それにしても、この街はくすり屋さんの多いところだ。チョット数えただけで十数軒ある。大した買い物もせずに、メキシコのコインを記念に両替しただけでこの旅も終了してしまいそう。又メキシコへ直で旅行に来ましょう。アデオス！

五日目

今日は一日ショッピングの日。歩いて行ける 7Th 通りの「セブンス・マーケット・ブレース」へ行って、「リトル・トウキョウ」へとショッピングしていると、上空をセスナ機が長い垂れ幕をつけて、音楽をガンガンならして旋回している。何だろうと見ると、今日はダウンタウンで、「ロスアンゼルス・グランプリレース」が開催されるらしい。これはラッキー！カナダ旅行の折も、トロントで「カナダ・グランプリレース」を偶然見る事ができた。何とラッキー続き！さっそく予定変更し、ロスアンゼルス中央駅に地下鉄で向かう。

「バオーン、バオーン」と轟音レースはスタート寸前。チケットを買おうとしたら、ドルの持ち合わせがない。円はだめ。それならカードで。ここは正規のゲートでないので、カードは使えないとイワハル。困ったネ。そうだ！向かえの駅へ行けば、キャッシング出来るぞ。あけみさんとりょうへいをその場に待たして駅に走り、500ドル引き出し急いで戻る。チケットは、1人50ドル(4000円)。

もうレースはスタートしてしまっている。市販車のレースなので、日本車も出ている。この辺りはボードもないので、どの車がトップなのか良く分からない。1時間位場所移動しながら見ていたら、二人が退屈そうにしてきたので、レース見物は一時中止。

このグランプリレースのコースは、市街地の一般道路を使用しているので、コース内の公園や広場は、各メーカーの展示車、カーアクセサリー、たべもの屋さん、ウエスタンショウ、etcのお祭りさわぎ。一通り見て廻ってオルベラ街へ行ってみる。ここは、ロスの中のメキシコ人街。街全体がメキシコそのもの。メキシコレストラン、メキシコの店、マリアッチの歌声。トイレもメキシコの雰囲気を持った造りだった。テフアナで買いそびれた銀製の指輪も、ここではものすごい店の数。ゆっくり選んで1個ゲット(これはいまでもお気に

入り)。レースの轟音の中オルペラ街も一通り見て、レース場を後にする。帰りにリトル東京に寄って見ようかと提案すると、二つ返事で OK。

リトル東京へ場所を変え、ミヤコ・イン・ロスアンゼルスで両替して、ドルを手にして(アメリカは両替手数料が高いからカードで払った方が有利)ジャパニーズ・ビレッジ・プラザやオニズカ・ストリートなど、日本人街をショッピングして歩く。KOUBAN と書かれた建物にびっくり。警察の派出所なのだ。リトル東京を南に一步出ると、とても治安の悪い所なので、皆でお金を出しあって KOUBAN を維持しているのだという。ビバリーヒルズ地区と同じですね。怖い、怖い、暗くなる前にホテルに帰りましょう。

ホテルに帰る途中、いつも寄っているタイ飯屋さんとチャイニーズの酒屋さんのうち、酒屋さんのおばちゃんは、最初の頃は非常に愛想が悪かったけど、5日目ともなると、大分用心深さが薄れてきた。今日なんか俺が、アメリカのコイン全種類お釣りで頂戴と頼んだら、今は流通していない 50 セントのケネディコインを店の奥から 7 枚も持って来て、「要るかい」とくれる。ケネディコインは非常に欲しかったコインなので大感謝。おばちゃん「ありがとう」。明日も来るからね。バイバイ

六日目

8 日間の旅も、今日でアメリカ最終日になってしまった。来る時に得した時間も、帰りにお返ししなくちゃならない。今日は、「サンタモニカ」へ行く予定なので、フロントのお兄ちゃんに最寄のバスストップの地図を書いてもらう。ホテルから 150M 程。さっそく出かけることにする。

MTA バスの #20 と #434 がサンタモニカ行きらしい。5 分も待たないで #434 がやって来た。一人 2 ドルの料金を払ってまずは乗車。かなり混んでいて座れそうもない。サンタモニカまでは、2,30,Kmの距離はあるのに、2 ドルでよかったのか、チョット心配になり、車内を見回し、距離別料金表でも張ってないかキョロキョロ。乗車時に、「サンタモニカに行きますか」と確認して 2 ドル払ったのだから大丈夫。しかし日本に比べると、交通料金が格段の安さですな。

そうこうする内に、一人ずつ座れて全員無事着席と思いや、老人登場。まずは良平がチェンジ。40 分程乗っていたけど、この wilshire Blvd は、一度もカーブもしないで真っ直ぐ西に走ってきた。こんな道路は、北海道で一回経験したことがあるだけ。終点のピア(埠頭)で降りて、棧橋のおみやげ屋さんをブラブラしたり、釣りをしているお兄さんに今日の釣果はいかがと見せてもらったり、海水浴客をながめたりしているうちに、もう 12 時近い。

ランチにしましょ。せっかくサンタモニカに来たのだから、「地球の歩き方」に載っていたシュワルツ/ネッカーのレストランに行って、ランチを食べる事に決定！

ピアから MTA バスのバス停で 5 つ程南に行った所。「今日はシュワルツネッカー、昼飯食いに来てるかな？」なんてのんきな事はなしながらレストランへ。お客さんは 5 組程。みんななんとなく映画関係者みたいな、チョットおしゃれな人が多い。テーブルに着いてメニューを見ていたら、お水を持って来たママさんみたいな綺麗なひとに、良平がコップの水を掛けられてしまい、お詫びにチュウをしてもらった。これは嘘です。このレストランは、アメリカではめずらしいテーブルで喫煙出来ます。皆さん葉巻をゆったりとくゆらせてくつろいでいます。さすがヘビースモーカーのシュワちゃんのお店ですネ。

食後、敷地内にあるシュワちゃんグッズの店と喫煙グッズの店を覗いて、帰りのバス停へ。

MTA バス停で待っていると、全然ちがうバスが来た。ピアまで行くかと聞くと OK との返事。早速乗り込む。料金が用意していたのと違ったので、10 ドル札を出してしまった。アメリカのバスはお釣りをくれないとガイドブックには書いてあったけれど、このバスのおばさん運ちゃんは、面倒くさい顔もしないで、10 ドル札を手に掲げて、客席に「誰かこの 10 ドル両替出来る人いるかい」と声を掛けて、両替してお釣りをくれました。けっこうマメですよ。

ピアに戻り、さあショッピング。まず、「サード・ストリート・プロムナード」に行ってみる。石畳の遊歩道の綺麗なショッピング通り。あけみさんがお店めぐりに行っている間に、俺らはベンチで一休み。チョイトたばこを一服。となりに座っていた、ヒッピー風のお兄ちゃんが「たばこを欲しい」というので、一緒に吸いながら廻りを見ていると、そここのベンチに腰掛けている人達のほとんどがホームレスだった。ダンボールにお金を恵んでくださいと書いて横に置いている人、スーパーマーケットの買い物カゴに全財産を詰め込んだ人ばかり。そんな中になんの違和感もなく溶け込んでいる自分が怖い。20 分もすると朱実さん達が戻って来たので、お兄ちゃん達にオイトマ。おじゃましました。

次はサンタモニカ・ブレースと言うモールに寄って、今旅行最後のおみやげを買い揃える。ソロソロ 5 時頃になるので帰りましょう。

再び MTA バスでダウンタウン方向へ。20 分も走ると、突然、乗客全員が降りてしまう。オネエちゃん運転士に「俺達シティーホールまで行きたいのだけど」と言うと、「地下鉄がここまで開通したので、バスはここまで。後は地下鉄に乗り継ぎだ」と言う。彼女「チョット待って」と地下鉄に行って、わら半紙に何か書いた物をもって来てくれて、「これを

持っていけばトークンの代わりに使用できるから」と親切に渡してくれた。ガイドブックに書いてあるより、大分ロスは親切な人の多い街だった。ありがとうアメリカ。楽しかったよ！

ホテルに戻る途中にある、いつものタイ飯屋さんに最後の晚餐とお別れの挨拶する為に寄ってみると、ドアにオープンのカードが架かっているのにドアロックされている。中を覗くとお兄ちゃんが急いで開けてくれる。隣のモーテルでトラブルが発生したらしく（そう言えばパトカーが2台止まっていた）、トバッチリ防止にロックしていたと言う。さすが自己防衛感覚はしっかり身につけています。

晩ご飯を注文して、明日のフライトで帰る事を告げ、サヨウナラの挨拶してホテルに帰る。

あ～あ、八日間の旅も終了しちゃった。アメリカはすごい大自然も一杯あり、大都会もあり、結構人間味ある親切な人達も多かった。

この旅の後、2回もアメリカへ行ってしまった。